

旭化成の水現像フレキシ樹脂版「AWP™」が、ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス「eatime大豆の甘みと食感を堪能できる国産大豆大粒納豆」パッケージの製版に採用

国内主流の印刷方式と比較して約14%のCO₂排出量削減に貢献

2024年11月12日

旭化成株式会社

旭化成株式会社(本社:東京都千代田区、社長:工藤 幸四郎、以下「当社」)は、2024年11月より、ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社(本社:東京都千代田区、社長:藤田 元宏、以下「USMH」)のプライベートブランドeatime(イータイム)の納豆の包装印刷において、水性フレキシ印刷^{※1}に使用する樹脂版に当社の水現像フレキシ印刷樹脂版「AWP™」^{※2}(以下「AWP」)が採用されたことをお知らせします。



「AWP」が採用された「eatime 大豆の甘みと食感を堪能できる国産大豆大粒納豆」

当社は、ナベプロセス株式会社(本社:香川県高松市、代表取締役社長:鍋坂 信也、以下「ナベプロセス」)と協業し、水性フレキシ印刷と水現像版「AWP」の組み合わせにより当該パッケージにおける最適な印刷条件を確立し、国内パッケージ印刷の主流であるグラビア印刷と比較して約14%のCO₂排出量削減に貢献します。

水性フレキシ印刷と水現像版「AWP」の組み合わせによる印刷技術の採用

水性フレキシ印刷は、溶剤インクを多く使用するグラビア印刷に比べ、一般的にVOC排出が低いこと、また水性インクは低温での乾燥が可能で、乾燥工程で消費されるエネルギーが少なく済むことが知られています。さらに印刷樹脂版においても、水現像版は水をベースにした現像液を使用するため、VOCを含む有機溶剤の使用を避けることができ、これに伴うCO₂排出削減効果も期待ができます。

現在、日本国内のパッケージ印刷においては油性グラビア印刷が主流となっていますが、近年は環境への意識の高まりからフレキシ印刷が注目されており、特に印刷プロセスで溶剤を使用しない水性フレキシ印刷への関心が高まっています。

このたび、「eatime 大豆の甘みと食感を堪能できる国産大豆大粒納豆」のパッケージにおいて、水性フレキシ印刷と水現像版「AWP」(下図)の組み合わせ技術による水性フレキシ印刷が採用となりました。

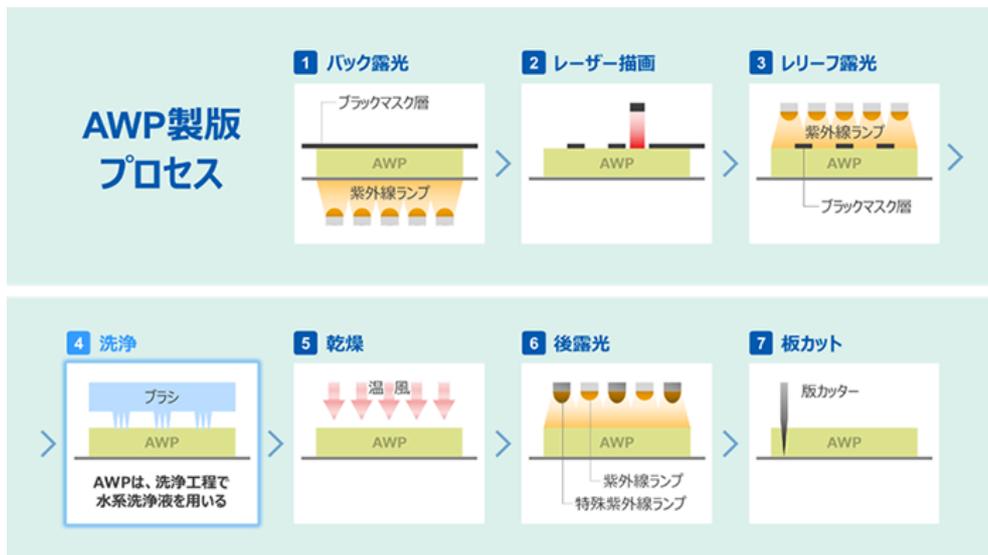


図:製版工程イメージ

当社は、『世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献します』をグループミッションに掲げており、今後も水性フレキシ印刷および水現像版「AWP」の普及に努め、パッケージ印刷の現場から溶剤を無くすことで印刷現場の環境負荷を低減し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

※1 フレキシ印刷:弾性のある合成樹脂やゴム製の印刷版を使う凸版印刷の一種。最大の特徴として、溶剤インキを使うグラビア印刷と比べ、パッケージの素材を問わず、水性インキを使用することができるため、昨今、環境に配慮した印刷方式として注目をされています。

水性フレキシ促進協議会HPは[こちら](#) □



「水性フレキシ促進協議会」オリジナルの
「Flexo(水性フレキシ)マーク」

※2 「AWP」(Asahi Water washable Plate):印刷版の製作工程において、従来の有機溶剤系洗浄液から水系洗浄液に変更することで、有機溶剤の使用をなくした当社独自の製品。

製品HPは[こちら](#) □

以上

> [ニュース一覧へ](#)